2021年5月作成

医師を中心に、さまざまな支援団体・企業と連携し、
女性の Well-being を実現します。

女性たちに、生き抜く力を。

日本女性財団

japan-women-foundation.org

一般財団法人 日本女性財団
東京都千代田区大手町1-6-1 大手町ビル1.2階　SPACES 大手町
TEL：03-6841-3996
info@japan-women-foundation.org

日本女性財団は、女性の生涯のWell-bingの実現に向けて、
草の根から包括的に社会を動かします。

日本女性財団とは

女性の生涯のWell-beingと、活躍を実現します。
医師を中心に、専門機関と連携し、女性たちを支援します。

※Well-beingとは「幸福」。心身と社会的な健康を意味する概念

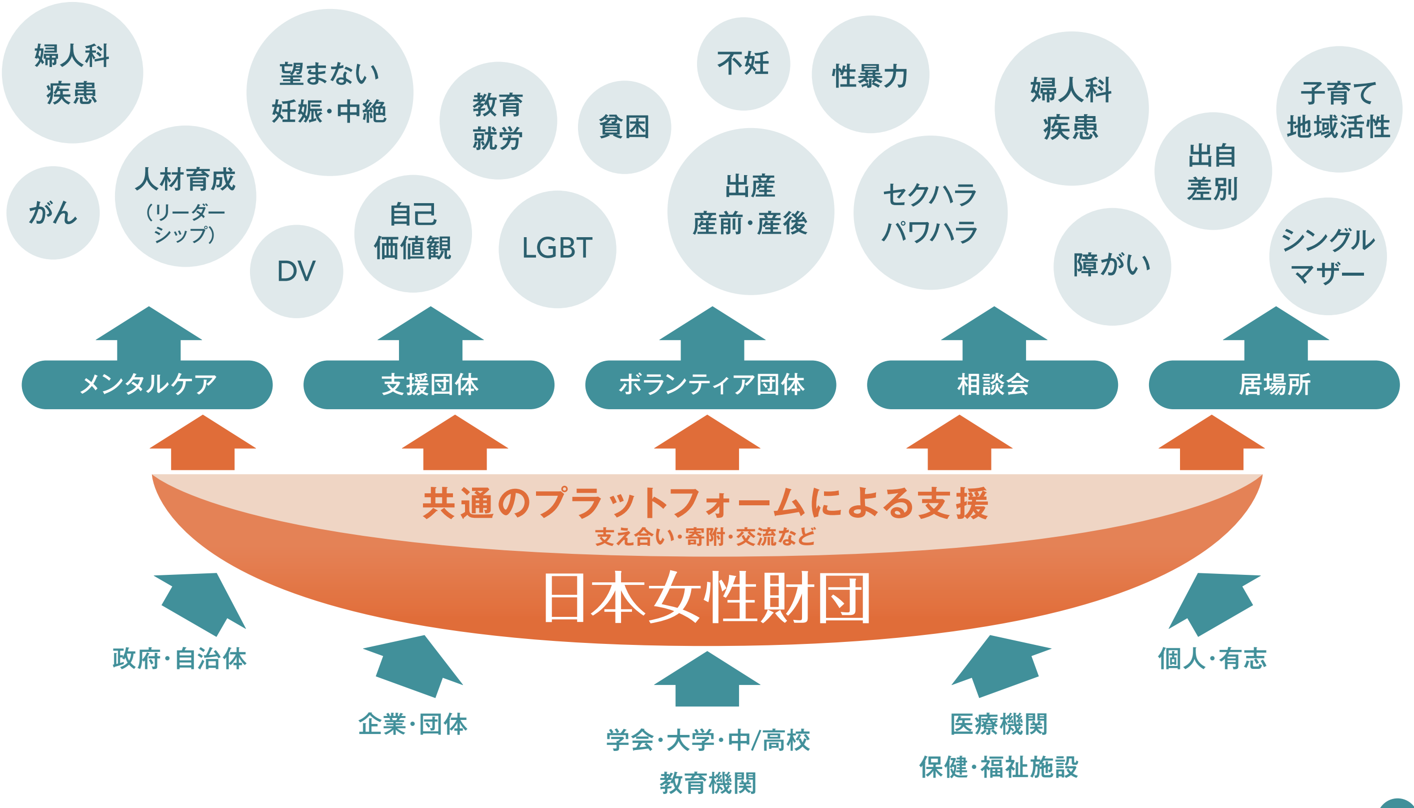
日本女性財団　代表理事メッセージ　対馬ルリ子

本財団は、未曽有のコロナ禍の中で誕生しました。女性には特有の健康リスクがあります。日本の女性に関するヘルスリテラシーは他の先進国に比べ低いのが現状です。私たちは、医師を中心に、「女性の 生涯の心身と社会的なウェルビーイングを支援する」というテーマを掲げ、女性の心身の健康 および社会的な活躍を後押しし、新しい日本の社会づくりに貢献してまいります。また、コロナ禍の医療現場では、女性たちの困窮した姿が、目に見えて増えてきています。望まない妊娠、中絶、DV、 虐待、失業、貧困による栄養失調、月経困難症など、女性たちに大きな負担とリスクが増加しています。

日本女性財団は、包括的に女性の人生を支え、救済して乗せる母船（femship：フェムシップ）をイメージしています。支援を必要としている女性たちを、フェムシップ・ドクターが窓口となって、適切な専門機関、女性支援団体につなぎます。

あなたもfemshipに乗船し、社会を動かしませんか。

対馬 ルリ子　1984年、東京大学医学部産婦人科学教室入局。
女性のための生涯医療センターViVi初代所長を経て、2002年、現・対馬ルリ子 女性ライフクリニック銀座を開院。2003 年、「女性医療ネットワーク」を設立、全国450名の女性医師・女性医療者と連携して活動。
著書に、「キレイな〔からだ・心・肌〕女性ホルモン塾」、『女性外来が変える日本の 医療』。テレビは、NHK「きょうの健康」、テレビ朝日「徹子の部屋」、日本テレビ「世界一受けたい授業」「NEWS ZERO」などに出演。



日本女性財団は、女性の生涯のWell-bingの実現に向けて、
草の根から包括的に社会を動かします。

私たちは、3つのテーマで活動します。

Action

Ⅰ 安心安全な暮らし

女性の生涯のWell-bing
日本女性財団

Ⅱ 環境支援

Ⅲ 啓発・研究

女性の生涯のWell-beingの実現

Ⅰ 安心安全な暮らし　女性たちが相談に行きやすい「femship-doctor」との地域連携

<新型コロナによる女性への深刻な影響への支援>

●性暴力、DV相談、緊急避妊、予期せぬ妊娠、若年妊娠などの相談・診察・ケアサポート
●一時保護や民間シェルターの整備・専門支援団体への連携
●生活貧困、ひとり親と子どもの栄養状態などの相談・診察・メンタルケア

<生涯を通じた女性の健康支援の強化>

●ライフステージに応じた健康保持の促進、妊娠・出産に関する相談・診察・ケアサポート

Ⅱ 環境支援　女性支援団体と連携したプラットフォームづくり

<地域femship-doctorを通じた地域のネットワークやコミュニティづくり>

●全国各地のFemship doctorを起点にしたコミュニティ機能の開設・検討プロジェクト

<女性のWell-beingを実現する環境づくり>

●すべての産業と共に女性たちのWell-beingを実現するための商品・サービスのアドバイス
サンプリングや販売支援

Ⅲ 啓発・研究　女性の健康に関するリテラシーの向上に向けた啓発・研究

<子ども・若者・個人に向けた性教育と女性に関わる健康教育>

●中高大学生、またはその保護者や指導者向けた女性の健康に関する教育・研究

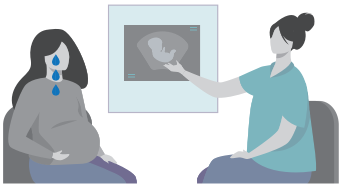
<企業に向けた健康経営と女性活躍のための教育活動>

●健康経営を掲げる企業における女性の健康に関わる知識教育・研究

新型コロナによる女性への深刻な影響への支援

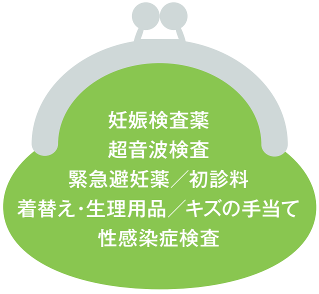
全国各地に女性たちを救済する femship-doctorの輪を広げています。

女性特有の身体の悩み、性暴力、DV被害、貧困などがあります。
医師がワンストップで女性の環境改善をサポートします。



女性ひとりを救済する費用

femshipレスキューキット
1人3万円



femship DOCTOR

北海道 北海道
堀本 江美
苗穂レディスクリニック
https://naebo-ladies.jp/
tel 011-781-1955

東北 青森県
齋藤 美貴
津軽保健生活協同組合健生病院
https://www.kensei-hp.jp/
tel 0172-55-7717

東北 山形県
井上 聡子
さとこ女性クリニック
http://www.satoko-clinic.info/
tel 023-687-0213

関東 東京都
対馬 ルリ子
対馬ルリ子女性ライフクリニック
https://w-wellness.com
tel 03-3538-0270

関東 東京都
宋美玄
丸の内の森レディースクリニック
https://www.moricli.jp/
tel 03-6206-3900

関東 神奈川県
関口 由紀
医療法人 LEADING GIRLS
女性医療クリニックLUNA
https://www.luna-clinic.jp/
tel 045-680-1226

中部 富山県
種部 恭子
女性クリニックWe!TOYAMA
https://we-toyama.jp/
tel 076-493-5580

中部 富山県
吉本 裕子
吉本レディースクリニック
https://yoshimoto-lc.com/
tel 076-422-2000

中部 岐阜県
廣瀬 玲子
広瀬内科クリニック
http://risshikai.or.jp/
tel 058-326-7773

中部 静岡県
船津 裕子
船津クリニック
https://www.funatsuclinic.com/
tel 0545-65-7272

中国 岡山県
金重 恵美子
セントラル・クリニック伊島
ウィミンズメディカルセンター
https://www.kohjin.ne.jp/clinic/
tel 086-214-5678

中国 山口県
金子 法子
医療法人いぶき会　針間産婦人科
http://www.noriko-cl.com/
tel 0836-21-2373

四国 愛媛県
富永 喜代
富永ペインクリニック
https://tominaga-clinic.or.jp/
tel 089-921-7711

九州・沖縄 長崎県
安日 泰子
やすひウィメンズヘルスクリニック
http://www.y-yasuhi.com/
tel 095-825-9700

九州・沖縄 沖縄県
髙宮城 直子
Naoko女性クリニック
https://naokoclinic.suzume-design.net
tel 098-988-9811

Ⅱ
環境支援

女性たちの安心・安全な環境を整えるために 専門機関・支援団体との連携プラットフォームを強化します。

専門機関・支援団体と横連携します。 志を共にする仲間の大きな母船(femship)です。

さまざまな女性支援団体の活動をプラットフォームで支えます。

女性医師・女性医療従事者ネットワーク

NPO法人女性医療ネットワーク
http://cnet.gr.jp/
Tel.03-6801-6193

一般社団法人日本女性医療者連合
https://www.jampwomen.jp/
03-3535-2995

女性リーダー・ライフキャリア・自立・就労

女性リーダー育成と経営実学
一般社団法人女性の実学協会
https://www.j-jitsugaku.org/

一般社団法人日本女性ウェルビーイング学会
http://www.jww.tokyo

障害のある人が暮らしやすい社会へ
特定非営利活動法人ReMind(リマインド)
https://nporemind.org/

不妊治療サポートとライフキャリア
ハチドリキャリア
https://www.hachidori-c.com/

婦人科疾患/がん/妊娠/不妊など

NPO法人子宮頸がんを考える市民の会
https://love49.org/
03-6672-6926

みんパピ!みんなで知ろうHPVプロジェクト
https://minpapi.jp/

子宮頸がん啓発プロジェクト「HelloSmile」
https://www.tfm.co.jp/hellosmile/index.php

公益財団法人ジョイセフ
https://www.joicfp.or.jp/jpn/
03-3268-5875

性暴力/DV/児童虐待/シングルマザー/子育て支援

性暴力救済センター・大阪SACHICO
https://sachicoosaka.wixsite.com/sachico
072-330-0799 ※24時間対応

NPO法人子育てパレット
https://kosodatepalette.jimdo.com/
03-5888-6943

一般社団法人ママリングス(東京都江東区の子育て支援)
https://www.momrings.jp/

Ⅱ
環境支援

女性たちの安心・安全な環境を整えるために専門機関・支援団体との連携プラットフォームを強化します。

収入減少、貧困状況は加速しています。母親の健康は次世代に影響します。

2020年度のDV相談件数・児童虐待相談ともに過去最多です。

パートナーからのDV被害

女性の約3人に1人

※さらにコロナ禍でDV相談件数は約3割増加

無理やり性交された経験

女性の約13人に1人

※警察に連絡・相談できたのは3.7%

2020年度のDV相談件数が12月までで14万7277件となり、過去最多となっています。
19年度は全国で11万9276件・うち未成年の子どもと同居している相談者は3万7044人。うち子どもへの虐待2万2337人で約6割にのぼります。
このように、DVと児童虐待が切り離せない問題であることが明らかになっています。

出典：2018年「内閣府男女共同参画局　男女間における暴力に関する調査報告書」より

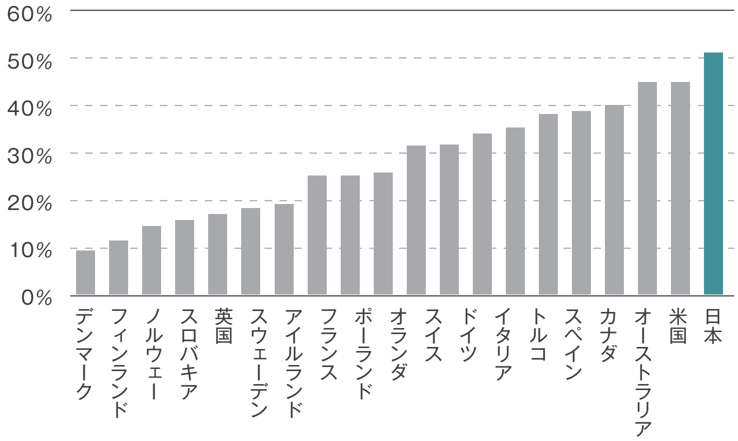
女子高生の中絶は1日37件。　性暴力の被害者は20代5割、小学生1割

男女ともに10代から20代で初めて性暴力の被害に遭っており、20代が49.4%と最多。18〜19 歳が14.0%、小学生のときが12.2%。警察に連絡相談ができた女性はわずか2.8%です。58.9%の女性が、誰にもどこにも相談できなかったと回答。(男女間における暴力に関する調査/平成29年度)　日本の人工中絶は1日440件。10代37件。(厚生労働省平成30年)

シングルマザーの貧困状況は、世界の中でも高く、子どもへの悪影響も大きい

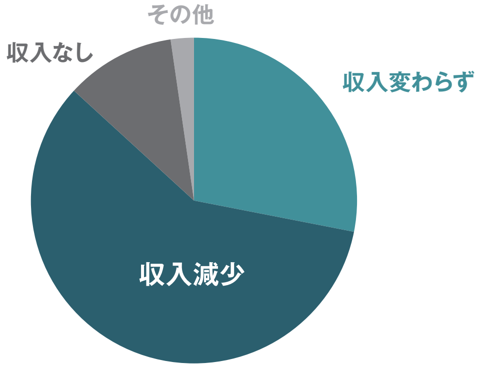
一人親の家庭で、貧困状態から親が倒れたり、病気になったりすると、子どもたちの生活環境はさらに困窮します。

世界の一人親家庭の相対的貧困率



出典：OECD　33カ国のうち主要20カ国を抽出

新型コロナ感染症によるシングルマザーへの経済的影響



出典：しんぐるまざあずふぉーらむ

女性のWell-beingと社会的な活躍が実現する啓蒙・啓発

女性の健康に関わる知識の向上を行います。

講師派遣、オンライン講座を用意しています。

インフルエンサー活動に参加しよう

https://www.femship.jp/

わたしとあなたを大切に。

#femship

femshipは、「誰かの船になろう」というアクション名です。“自分のカラダを大切にするわたし”、“周囲にも伝えよう、というあなた”を待っています。ご登録いただくと（femshipメンバーになると）財団の企画やイベントの案内を受けることができます。

思春期の“男女”・思春期の保護者、指導者へ

小中高校生向けの健康・性教育講座を医師・専門家が行います。思春期の子どもたちは、もっとも恋愛と性に関心が高くなるときです。命の大切さ、後悔しない明るい人生をおくるために知っておきたい（学校では教えにくい）基礎知識を伝えます。また、保護者、指導者向けにも行います。
講師派遣、オンライン講座など可能です。事務局にご相談下さい。

ウィメンズヘルス&ジェンダー講座

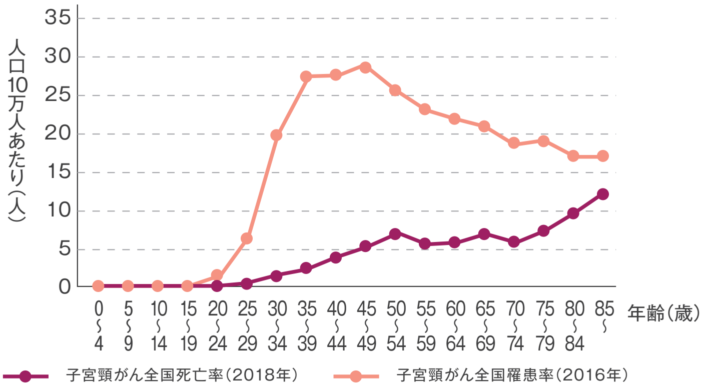
女性の健康に関わる知識を知ることは、その後の生活に大きく役立ちます。女性自身の健康のためだけではなく、家族の健康、職場の健康にも大いに役立ちます。一生を通じて、健康でしあわせな人生を送るために知っておきたい知識を体系立てて一年間のプログラムで提供しています。1回のみ関心のあるテーマだけの受講も可能です。全プログラムを受講された方には、修了証を付与します。地域や職場での普及にお役立ていただけます。

企業の方へ　女性たちのWell-beingを支える活動協力

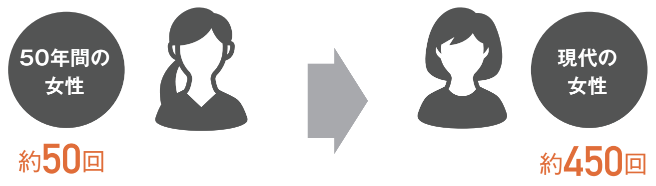
日本女性財団は、女性医師、医療関係者、健康に関わる専門家や団体と連携しています。健康意識の向上を目的とした研修・講演を行います。
また、フェムテック、ケア用品など、女性たちが快適に過ごすための商品、サービスの開発支援も行います。

女性の健康に関する知識は全ての世代に必要です。

子宮頸がんは、20代〜30代に罹患者が増加



女性の生理は、一生を通じて昔は約50回、今は約450回



女性の社会進出や出産回数の低下により、生理の回数自体も昔と比較すると増加しており生涯での生理回数は【9倍の450回】とも言われています。社会環境の変化により、女性のカラダと健康に大きな変化が起きています。

婦人科系疾患を抱える働く女性の年間医療費支出と生産性損失

1人当たりの金額

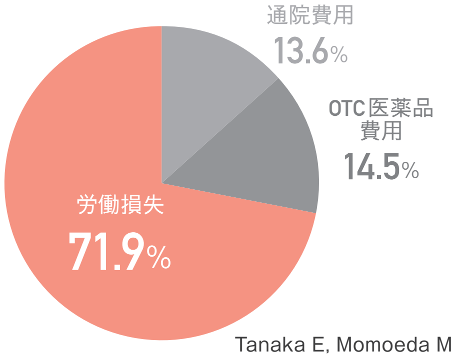
働く女性の人数 **2,474万人**（労働力調査） × 婦人科疾患有病率 **17.1%**（Nohara2011） × 医療費 **33.5万円** / 生産性損失 **117万円** ＝ 合計金額 **6.37兆円**

医療費 1.42兆円、生産性損失 4.95兆円

出典：日本医療政策機構（2016年）

生理痛やPMSなどの月経困難症による労働力の低下による経済的損失は年間6828億円

月経随伴症状による1年間の社会経済的負担



Tanaka E, Momoeda M, Osuga Y et al, J Med Econ 2013;16(11):1255-1266に基づき作成。

内　訳	推計額
通院費用	930億円
OTC医薬品費用	987億円
労働損失	4911億円
総　計	6828億円

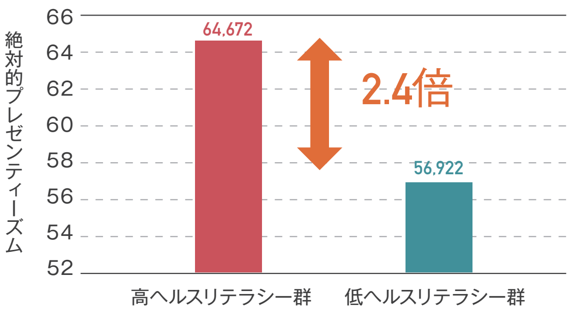
OTC医薬品:一般医薬品

経済産業省ヘルスケア産業課の「健康経営銘柄2018」では、女性の生理などによる労働損失は、4911億円、通院費用、医薬品費用などを足すと、6828億円という数値が公開されています。
8割以上が生理痛やPMS（月経前症候群）による仕事への影響を感じている」という結果もあります。
（ルナルナ調査）

女性の健康リテラシーを高めましょう。
ヘルスリテラシーの高い人は、女性特有の症状において仕事のパフォーマンスへの影響が少なくなります。

女性に関するヘルスリテラシーとは「女性が健康を促進し維持するため、必要な情報にアクセスし、理解し、活用していくための能力」です。女性のヘルスリテラシーの高さは、仕事のパフォーマンの高さや妊娠、健康行動と関連があります。

ヘルスリテラシー高低群×仕事のパフォーマンス



（n=2000）

あなたも一緒にfemshipに乗りませんか。
女性の生涯のWell-beingな社会を実現しましょう。

組織図と連携

日本女性財団

理事会

代表理事	対馬ルリ子
理事	浅野邦子
理事	内田容子
理事	吉川千明

監事

池上清子
公益財団法人
プラン・インターナショナル・ジャパン
理事長

評議員会

奥田浩美	(株)ウィズグループ 代表取締役
小巻亜矢	(株)サンリオエンターテイメント 代表取締役社長
高階恵美子	参議院議員
田瀬和夫	SDGパートナーズ(有) 代表取締役CEO
吉村泰典	慶應義塾大学名誉教授

事務局

顧問

・弁護士	樽本哲
・税理士	本郷順子
・行政書士	岩下文

- 寄附・支援者（企業・一般の方）
- 設立初年度 発起人
- 地域のかかりつけ女性医師 femship-doctor

連携

- 政府・自治体
- 企業・団体
- 学会 大学、中・高校 教育機関
- 医療機関 保健・福祉施設
- 個人・有志

評議員

奥田浩美様
株式会社ウィズグループ
代表取締役

小巻亜矢様
株式会社サンリオエンターテイメント
代表取締役社長

田瀬和夫様
SDGパートナーズ有限会社
代表取締役CEO

吉村泰典様
慶應義塾大学 名誉教授
新百合ヶ丘総合病院 名誉院長

高階恵美子様
自民党　参議院議員

発起人・理事

対馬 ルリ子（代表理事）
産婦人科医
対馬ルリ子女性ライフクリニック
院長

浅野邦子
株式会社箔一
代表取締役会長

内田容子
総合電機メーカー
広報・PR職（現職）

吉川千明
美容家・
オーガニックスペシャリスト

監事

池上清子様
公益財団法人
プラン・インターナショナル・
ジャパン
理事長

あなたも一緒にfemshipに乗りませんか。
女性の生涯のWell-beingな社会を実現しましょう。

発起人（個人）

赤澤純代様
金沢医科大学
女性総合医療センター
センター長

荒木葉子様
荒木労働衛生
コンサルタント事務所
所長

市瀬優子様
美和商事株式会社
代表取締役社長

宇田川貴子様
東京都認証保育所
仲良し保育園グループ
代表

上条由紀子様
国立大学法人長崎大学
FFGアントレプレナーシップセンター
教授・弁理士

片山依利様
有限会社えりオフィス
代表取締役

河本宏子様
株式会社ANA総合研究所
顧問

笹尾敬子様
国立国際医療研究センター
理事

関口由紀様
女性医療クリニック
LUNAグループ
理事長

高宮城直子様
Ｎａｏｋｏ女性クリニック
院長

武田淳也様
医療法人明和会
整形外科 スポーツ・栄養クリニック
理事長

富永喜代様
富永ペインクリニック
院長

中宮紀伊子様
長生殿本舗森八
女将

永田潤子様
大阪市立大学大学院
都市経営研究科
教授

バーバラ長谷川晴恵様
株式会社ABCネット
代表取締役社長

本多公子様
株式会社アウラ
心理教育センター
代表取締役

森田敦子様
株式会社サンルイ・
インターナショナル
代表取締役

山田メユミ様
株式会社アイスタイル
取締役

吉田恭子様
裏千家茶道教室
紫水庵
主宰

吉本裕子様
吉本レディースクリニック
理事長

※ご芳名の公開にご了承を頂いた方々のみを
掲載しています。

発起人（パートナー企業）

サラヤ株式会社 取締役 代島裕世様	株式会社箔一 取締役会長 浅野邦子様	ラインファーマ株式会社 代表取締役社長 北村幹弥様	朝日染色株式会社 執行役員　管理部長 原友紀様	アット・ワンス株式会社 代表取締役 杉本美晴様
株式会社アバンティ 代表取締役会長 渡邊智恵子様	株式会社 インタートレードヘルスケア 代表取締役 内藤敏裕様	Katsuyoサロン サロンオーナー 山中克予様	株式会社キャリア・マム 代表取締役 堤香苗様	小金屋食品株式会社 代表取締役 吉田恵美子様
株式会社SouGo 代表取締役社長 北條裕子様	株式会社ノハナ 代表取締役社長 大森和悦様	株式会社ハー・ストーリィ 代表取締役 日野佳恵子様	株式会社マイテック 取締役社長 村上典江様	シオノケミカル株式会社 代表取締役 塩野谷 貫一様
株式会社常盤不動産 代表取締役CEO 鈴木豪一郎様	白鳥製薬株式会社 代表取締役社長 白鳥悟嗣様	LiLi株式会社 代表取締役 廣岡絵美様	株式会社BORDER 代表取締役 高多直晴様	株式会社 MTGプロフェッショナル DS営業本部 本部長 長島洋輔様

売上の一部ご寄附

朝日染色株式会社 オリジナルマスクなど HIKARU PROJECT	株式会社ハー・ストーリィ フェムテック WELL WOMEN PROJECT

日本女性財団は皆さまからのご寄附で運営しています

個人の方へ

■フェムシップメンバーとしてご登録をお願いします。 無料

女性を支え、すべての人々が心身共に健やかにすごせるように、
私たちと共に情報発信をしてください。

https://www.femship.jp/ ご登録はこちらから

■フェムシップサポーター

●女性の健康とジェンダーについての知識の習得と普及

「ウィメンズヘルス&ジェンダー講座」を受講し、ご自身とまわりの方々のために役立てましょう。
修了証をお渡しします。詳細はお問合せください。(2年更新)

●ご寄附・ボランティア

金銭、物品などをご寄附いただくほか、遺贈による支援も受け付けています。

企業の方

フェムシップパートナー企業は、財団と共に女性の健康支援と、
男女が働きやすい職場環境を整備し、健康経営を実現する企業です。

会 費(年)	30万円	100万円	特別会員 300万円
フェムシップドクターもしくは女性医療ネットワークの医師による健康講座	1回	2回	6回
ウィメンズヘルス&ジェンダー講座の聴講資格	1名	2名	6名
フェムシップアドバイザー取得資格	○	○	○
健康推進のためのアドバイザリー契約	ー	1年間	3年間
共同での商品企画サポート	ー	ー	1件

どちらか

●販促型のご寄附

クリニックでの商品サンプリングおよび寄附付きの商品販促。(ご相談ください)

●ご寄附

年間　3万円～100万円で毎年のご寄附を承ります。
随時　100万円、300万円、1000万円～
企業様と財団の共働についてはホームページに企業様名をご紹介させていただきます。

●お問合せ先（共働・ご寄附・協賛など）

一般財団法人 日本女性財団
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-6-1
大手町ビル1.2階　SPACES 大手町
TEL：03-6841-3996
メール：info@japan-women-foundation.org

●女性たちを支援するためのご寄附先

みずほ銀行 銀座中央支店
普通 3057005
一般財団法人日本女性財団

2021年5月作成